(大正十年四月二十二日第三種郵便物認可) 昭和十五年五月十四日 磐城新聞 (火曜日) 第五千八百八十八號 [一]

夕刊
五月十三日發行
東京振替一〇八〇五五六五番

祝縣立平工業學校開設

縣立平工業學校の開設を祝福す

我々國民はいま人類の宿命を負ひ、總力を擧げて新東亞建設の聖業に邁進しつつある。輝かしいその使命と榮光とは蓋し未來永劫全人類の間に祝福さるべきであるが、之れが徹底的完遂の前には不退轉な吾々國民の滅私奉公の如き強靭な經濟陣容の整備に俟たねばならぬ。人的には前線銃後のピッタリ呼吸の合つた寸分の弛み無き結合と物的には消費節約と産業の擴大強化と精、消耗極を行く斷じて何ものも拔くべからざる金剛不壞の心構へがあつてこそはしめてこの大理想境に達し得るは云ふ迄も無い。而して存所に磅礴たる資源の開發に、絶たざる國を驅つて一躍持つ國たらしむる所以である。坑底深くその威力を發揮する鑿岩機の唸り、スキッチ一拈よ！乾坤を支配する全能神に近い科學の精粹！常磐炭界を掩ふそのダイナミックな音響は何れ國力發展の快い行進曲であらねばならない。若き産業人を作る縣立平工業學校の使命や時局柄一入重且つ大と謂ふべきであるけふの開校に當り衷心向來の健全なる發展を祈りその前途を祝福して措かぬ。

昭和十五年五月十四日

磐城新聞社

平工業學校創立に祝福される地方炭礦
若き産業戰士に期待

平工業産みの親 青沼市長(上)と三井榮一氏(下)

マルコポーロが、東方見聞録に於て深い謎とした『燃ゆる土』は常磐地方一圓に亙り而も豊饒に分布埋藏して、それが動力源泉となり將たまたその原形自体が血となり肉となり、近代文化を縱橫に跳躍する國力推進の最も重要な一翼をなしてゐる。けふの縣立工業學校の開校を記念祝福するも於て學校の性質上それに於ける密接の資源を有し云つても炭礦を數へねばらぬが、磐城地方には一体どの位の炭礦があるか。阿武隈高原の東側、太平洋に沿ふ地帶をざつと見ると磐城、入山、古河、大日本、日曹礦業の大より、郡下の分を數へた丈けでも山添、金山、宗像、江藤、晩成、石坂、楢北勿來、東北、上平、双田、相馬、柴田、磐崎、隅田川、平、戸部、日野、若松、大星、東、石城、宮崎、城北、王城第三、磐城神奈川、浪花、壽、五十嵐、高階、八宮、大澤、多賀、不動等々の多數を算し之に隣縣茨城の多賀郡地方を併せると實に意外の多數に上り、之との協力一致に俟る銃後の増産は時に強い極みである。今後平工から溜出する豊富なる教養訓練を提げその第一線に起つての資源開發こそ豫め期待するに充分なものがあり、けふの記念すべき縣立平工業學校開校式に當つて、何にも輝かしい其々の前途が祝福されるわけである

福島縣立平工業學校開校式次第

五月十四日午前十時
一、敬禮 二、開式ノ辭 三、君が代奉唱 四、知事告辭 五、來賓祝辭 六、學校長答辭 七、閉式ノ辭 八、敬禮

祝賀會順序

開辭、宮城遙拜、默禱、協贊會長挨拶(伊藤助役代理)來賓挨拶、開宴、萬歳三唱、閉會

平工開校 經過概要
開校の喜びを迎へ

平工業學校は昭和十二年九月十日の市會に提案、滿場一致決議以來市では市會と緊密な連絡の下に着々準備に入り總額七十九萬七千四百七十三圓の豫算で機械電氣採鑛冶金の三科目併置のわけであつたが豫算の都合上機械科を除いて五十六萬圓に縮少の已なきに至り昨年五月から寄附金募集に着手し熱心奔走の結果、その間第五小學校敷地轉用などの曲折も圓滿解決、遂に今の開校により古びた舊中學校舍乍ら我地方教育界に一エポックを畫したわけである

現平商校舍西方の敷地は目下着々埋立工事が進み名實ともに備はる日も愈よ近きにある

一流人物を網羅
鮮かな教職員の詮衡

極めて短時間の陣容整備に校長以下職員の人選等も人材拂底の時節柄蓋容易ならぬものがあらうと豫想されたが、開校を前に一瀉千里で次々如く決定何れも一流處を網羅したこの鮮かな人事行政振りは人をして少からず感服せしめてゐる

校長 立花喜吉
教諭 小野峰次
山崎宣吉
豐口欽哉
吉田泰雄
金子與一
菅原勉
中山正夫
書記 伊東芳松

義擧永く喜ばる
意義深き篤志寄附者

内田元鐵相の水高、藤原商相の藤原工大、近くは故根津翁の世界的美術館建設に對する提供等、聞くだに快い篤志美擧にも等しい記篤志の寄附こそ實に今回の平工業學校建設に對し唯一無二の基礎をなしたものである

△三井榮一氏△磐城、入山、古河各炭礦△赤井日曹△大日本電力△平電力△日立製作所△諸橋久太郎△小田吉次△戸部光衛

考査合格者

平工業學校開設初年度の入學者として祝福さるゝ合格者左記七十名昨十二日午後四時發表された

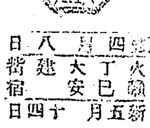
(考査番號順)

(電氣科)漆戸玄、大越尚、根本榮、關宗次郎、菊地信道、齊藤任哉、中野博之、矢吹康、青木榮治、松本富夫、鈴木一孝、白木源之助、福田司、馬目清、佐竹政二、柳沼親、水野兵三、皆川喜己、古市久左エ門、吉田善文、山本幸藏、木村喜久、佐藤正、瀧内廣、小野寛明、田中末治、牛内喜一、木田裕、高橋昌治、小林喜八、門馬了八、鶴田明隆、和田勝男、大平善造、鈴木幸助、鎌倉忠吉、大樂光之、國井陽長、大友善夫、菅市(以上四十名)

(採礦冶金科)鈴木英雄、戸田安行、阿部條平、鈴木宗吉、久保田久市、阿部千代治、島田實、小松高隆、吉田榮一、高橋勇、大西芳三郎、下河邊孝正、澁谷良平、蛭田八十治、丹野要、久保木廣臣、山崎信昭、川島重雄、桑原榮、五十嵐光雄、鈴木昇、佐藤達也、樋口貞一、鈴木隆、佐藤源明、坂本隆、安藤際、金成整治、金田英□、草野太二雄(以上三十名)

神谷の火事
三戸全半燒す

昨十二日午前十時十分頃神谷村塩字中塩農佐藤常次郎方から發火、同家を全燒更に二町餘飛火し、市内鎌波製紙工場職工松戸□二郎方を燒き隣家の志賀新太郎方を半燒十一時四十分鎮火した 損害二千餘圓、原因焚火の不始末らしい



新暦 五月十四日 火曜 丁巳 大安 四月八日 建 箕宿

△一白 盛運の日なれども高ぶるときは失墜すべし△二黒 窮してぐちを出さゞるが眞の勇者自重せよ△三碧 油斷のならぬ日金談相談等は殊に注意せよ△四綠 貿易ある言と虚妄の言とを誤り易き注意日△五黄 多方面に氣を外さず職業を能く守れば無事△六白 利得の念に驅らるゝときは口舌を招くべし△七赤 勵げめ勵らけ再々とは來らぬ好運の日なり△八白 外に施せるよりも内に多くの財貨の集る日△九紫 心のなやみの晴れざる日四圍生活がもつとも吉し

天氣豫報

今晩 南東から北西の風雲小雨後晴
明晩 北西の風晴

祝縣立平工業學校開設

磐城炭礦株式會社礦業所 所長 一ノ瀬亮一朗 副所長 濱崎善三郎

入山採炭株式會社 取締役所長 大貫經次 事務部長 小山田滋

古河鑛業株式會社好間鑛業所 取締役所長 下野十朗 係員 安孫子虎雄

石城郡赤井村 日曹礦業株式會社 常磐出張所 所長 新村右一郎 副所長 鳥居大恵 事務長 石躍敏胤 電話一八九番 七二八番

石城郡赤井村 日曹赤井炭礦 日曹常盤炭礦 日曹福島炭礦

石城郡好間村 日曹小田炭礦 電話一三二番

日曹平炭礦 電話四八二番

石城郡赤井村 日曹赤井窯業工場

磐城無盡株式會社 會長 小宅嘉久治

片倉磐城製糸株式會社

平製氷株式會社

平看護婦會 清野キヨ

石城町村長會

石城各學校長會

白水炭礦會 五十嵐炭礦 高階炭礦 神奈川炭礦 波花炭礦 壽炭礦

福島縣平市月見町 總發賣元 興亞文具商會 會主 石川榮三郎

平市長 青沼鉾太郎 平市會議長 野崎滿藏 平市會副議長 蓮沼龍輔

福島縣平市五町目貳拾番地 大日本電力株式會社 平事務所 電話一五四番 七四六番 七四七番

貴族院議員 諸橋久太郎

衆議院議員 星一

三井榮一

平運輸株式會社

平料理屋組合

大日本炭礦株式會社 會長 古賀春一 專務取締役 戸部光衛

戸部商店礦業部 內郷礦業所 小野田礦業所 戸部光衛

重內炭礦株式會社 社長 岩崎清七 取締役 菊地寛實 同 戸部光衛

神奈川炭礦 礦主 矢郷倉藏

五月晴れに躍躍する男女七千の健康群像
盛んだつた市体操大會

輝く健康、歡び溢るゝの ち！市と東部の主催に係る平市第三回体操大會は既報の通り昨十二日の日曜をトし午前九時から平商業學校々庭に於て健康群像跳躍の姿華繪卷を展開した。此日早曉來の曇天に風さへうそら寒く、些か空合ひを懸念されたが天公この催しに幸して刻々皐月空に晴れ、く、盤譜のメロデー快く流谷川瀬山の新緑すが〳〵しる裡に参加全員六千五百六十名がユニホーム姿颯爽と入場すれば

開會宣言、國旗掲揚、宮城遙拜、橿原神宮遙拜、默禱、二千六百年頌祭合唱、式辭（菅沼市長代理伊藤助役）祝辭（遠沼市會副議長）日本体操大會歌齊唱

の式次も厳かに午前十時愈よ左記合計十一種目、参加延人員實に一萬六千餘人の各種演技が觀衆の讃美を浴び次々と行はれ、講評あつて萬歳三唱、極めて盛會裡に正午過ぎ閉會した

（演技）1國民保健体操第二全員（六五六〇人）、2建國体操中等生男（二〇一〇）、3紀元二千六百年遊戯女生（七五〇）、4大日本國民体操小學校男子（一一二〇）、5護身術中學女生（八〇）、6劍道將試合磐中平商有（五〇〇）7大日本産業体操片倉女青（三二〇）、8、與亜基本体操磐中平商（一七八〇）、9奉風紀元二千六百年小學校女子（一一五〇）10大日本女子青年体操女子中等生（一五六八）、11大日本青年体操磐中平商四五年（四一〇）

慰勞の芝居見物
入山の全職員上京

公休日を半減して只管銃後の増産に努めゝある入山炭鑛では過般事務員看護婦等八十二名の娘子軍を泉村下川海岸の悠々荘に清遊せしめ更に多數選炭婦の五浦遊行を計劃（兩天の爲め映畫會を催し一日を慰む存分の後物・變更）したなど、能率増進上常に職員從業員の慰安に細心の考慮を拂つてゐるが二百四十名の職員に對しては昨十二日と次回日曜の二回に分け歌舞伎座の觀劇に上京せしむる事となつた外男子の一般從業員には來る二十六日陸上大運動會を催し一日を思ふ存分跳躍に解放する事となり目下準備中であると

好間川産の盆石
天下の番附線上に
地方に同好者を増す

地方の盆石趣味は諸稿元三郎氏或は故坂本隆造氏らの蒐集鑑賞家を先達として逐次同好者を增しつつあるが斯の道の人の語る處

石の姿は昔から五宿と稱して岳、嶺、朝、市、尾と云つて山形をなし、嶺のある石、瀧のある磯、平地のあること、崎のある事、以上備つた石を最も良いとされてゐる。その內三四點叶つて居れば上石としてあるとの事で、附近では好間川石から意外の逸品が掘り出されてゐたが最近この好間川石が京都の加茂川石同鞍馬石、近江瀬田川石、紀州古谷石、静岡丸子石其他等、々と共に天下の名石産地として斯道の大家勝野玄鵬氏によつて折紙が附けられ、一躍天下の番附線上に浮び上つた

凄い報國債券景氣
市內各方面何れも
瞬く間に賣切れ

早くからその發賣を待ちわ遠しがられた割增金附第一回報國債券は愈よ今十三日朝賣り出されたが平局の十圓券二百枚、五圓券百五十枚との金額二千七百五十圓は、雨に出足を鈍らせられ乍らも六時頃から詰め掛け番號札を渡されて八時の窓あけを待構へた人達により三十分間の瞬く間に羽が生えて飛んでしまひ其他各銀行、信用組合、無盡會社とも同樣の景氣であつた。一人一組一枚と云ふ制限でうまく行つた人は十圓、五圓券一枚を手に入れた。第一回抽籤は來る八月中で一萬ラッシュの熱狂はその時にはじめて捲き起されるわけである

雄魂安らかに
散華勇士公葬日取

興亞の礎となつて前線の華と散つた左記諸靈に對する公葬は各町村の日取り（何れも、午後一時）を以て小學校で執行すると

十五日＝泊名黑川藤平上等兵、赤井新妻文平上等兵

十八日＝高久芳賀芳勝伍長、飯野若松勝義上等兵、好間宮本英二上等兵、永戸鈴木義勝伍長

二十日＝川前熊谷忠一伍長、同志賀三平上等兵

水禮讚
○△生

眞鍮の蛇口、眞鍮の容器いつもピカ〳〵光つて居つて實に氣持がよい、一頃西式强健術と云ふものが流行して、木の枕をしたり、一日に二升の水を飲んだり！して居る人があつたが、私は木の枕はしないが、水は其頃よりも十年も前から二升も三升も飲んで居つた、之れが私の健康法の基で水飲むと惡いと云はるゝ下痢の時でも、私は平氣で飲んで居る、そうしてそれでいつの間にか直つて居る、私が水を飲めなくなつた時は身體に餘程の異状のある時である、いつぞや食物に中毒して胃袋が猛烈に痛んだことがある、あんな苦しい思いした事は生れて初めてゞあるが、その時は流石は水ものまゝなかつた。何糞俺は水をのめばどんな病氣でも消飛んでしまふと、頑張つて無理にのまうとしても何うにも喉に落ちて行かない こんな現象も生れて初めての經驗である。

私は血統から云ふても醫質から云ふても腦溢血系統であるが、水をのんで居るから罹る心配はないと自分では確信して居る。或醫者の話に水は血液の新陳代謝を助長し、心身轉換の作用を促進せしめ、鎭靜の作用があるものだから、腦溢血性の人には事の外効果があるものである、現に水一合位のむと、脈搏が一分間に十位も減ずる人がある。又演說して居る人が一口か二口水をのむことに依つて興奮した感情を鎭靜する事が出來るのを見ても、水の効果がわかるであらうと云はれた。

贈守屋女史
珠雲　小野翁平

婦風報効志論堅
日夜奔走志良眠
世上鬚眉無愧否
婦人努力君斯金

けふの言葉

戰勝の秘訣は必ず勝つと信ずることだ
ナポレオン

5月 14日

△大久保利通薨る（明治一一）△靖[illegible]社の社格を制定す（明治四）

淚なくして
冬川克之

江上の岸　にふく風も
時かと偲ひ　まぼろしの
銃をかたてに　仰ぐ夜に
泣たいよう　なつかしい
あの夢、あの影　胸をつく——

空を仰げば　北斗星
いみじき歌の　調べも
とほく呼ぶのか　祖國の聲
淚に胸も　しめりがち
あの聲　あの歌　なつかしい——

江上にうつつ　春の夜の
あだななぐさめ　おぼろなり
影を慕ふて　なける夜は
戰友の遺骨に　くみながら
あの友　あの顔　思ひ出す——

荒れる北風

荒れる北風　歩哨のきむさ
なにを祈るか　途切れるまゝに
劍に誦經の　聲かする。
今夜あたりは　夜襲がうかぶ
いさむ黑鐵　づへふりあげて
月を仰げば　世の顔
燃ゆる焔に　風さへ凪ぎて
暖谷千里に　なかなる夢は
祖國を睨んだ　その笑顔

講談　夜嵐お絹〔66〕
悟道軒圓玉　筒井直衛畫

意外な會見

黑都玄達は眠てゐる客の前に屈みより、

『起きろ〳〵』

と叫んで掛け蒲團に手をかけた、

『これ何をする、いま暫く起すナ』

『不埒者め、主人の不在中無斷にて此の居間に入り眠り居るとはまて〳〵大膽不敵、起きろ〳〵』

サラッと夜具を剝ねて跳に起き上つた酒井登之助

『坊主、久し振で會つたナ』

と言はれて玄達が其人をヂッと見て

『コレハ〳〵、あの節の[illegible]家樣でございますか』

『思ひ出したか、今から數へて二年前向島でおつに逃つた事がある仔細あつて俺は屋敷へ戻ることも成らず、それに足に怪我をしてゐる、茲がお主の住居と知つて傷の手當を兼へ疲れを休める爲に一と寢入したよ、アー快い心持だ、龍宮へ行き乙姫樣に惚れられた夢をみてゐたが、お主の爲め面白い夢を破られた、是が貸本ならば今度來る時に此のあとを持つて來いと云はれるが夢ばかりは續きを見ることは出來ねエ、さりとはお主は罪知らずだナ、アハハ、』

と笑つた、玄達は惡い奴に出會たと苦い顔をしたが出て行けとも云へぬ、

『何うしてお怪我をなさいましたか』

『それには譯がある、何れ其内に話す時期もあらう、當分茲に置いて旨い物でも食はして飼つて置いてくれ』

『畏まりました、お世話致します！』

『今お主の姿から聞いたが大久保家の御愛妾春月院は谷中蔭涼寺町で藝妓になつてゐるさうだナ』

『左樣でございます、今晩も猿が廻つたにつきまして其見舞にまゐり只今歸宅いたしました』

『容色も宜し聲も出來る、定めし賣れるであらう、お主は春月院の讎の敵、お八重を引ッ攫つて宿場へ持ち込み小判に替へやうとしたがそれが外れたために女を川へ投げ込んで向島まで逃げたところを出會頭に俺が抑へた、其時町方見廻りの役人に引渡さうとは思つたが斯んな物でも助けて置けば功德に成らうかと一体慈悲深い俺の氣性とて見逃した、其の罪根の報いでこれから茲に世話になる、まづ二三年置いてくれ』

玄達、惡い奴だが、酒井には貸本な弱點を握られてゐる事とて逐ひ出す事もならず、乃で妾のおつやには俺が昔世話になつたあるお旗本の若殿樣だが放蕩、爲に親元を勘當されたと斯う云つてゐるところが此の食客は我儘で

『オイ、坊主おつやに小言を云へ』

『何んぞお氣に障つた事でもありましたか』

『萬事に氣が廻るねエ、昨日茶受けに羊羹を出したが今日の茶に鮨でも取るが宜い、そが今日も蒸菓子だ、一つ物ばかり食はせるあいつは江戸ッ子でなからう』

『へエ竹の塚の者でございます』

『江戸に近い竹の塚にもあんな野暮な女が居るかナ、よく云ひつけて置け、そこで坊主、今日の夕飯には八百善から變つた物を取つてくれ』

『これは驚いた、入費のかゝる居候だヘエ〳〵畏りました』

『厭な顔をするナ、草の根や木の皮を賣りつけて法外な禮金を取るお主は醫者だ匕一本が魔除けになつて親の敵兄弟の敵と言はれぬ病人を殺して置いて金を取るは冥利の惡い渡世だナ、罪滅しの爲にドシ〳〵金を遣へ』

『これは恐れ入りました、私にて出來得る限りはお世話致します時に酒井さん、あなたにお尋ね申す事がございます』

『俺に訊くことそれはどんなことだ』

『あなたはどう云ふ譯でお屋敷にお歸りなさらぬか、それをお話し下さい』

『そんな事聞くな、歸る時節の來るまで待つてゐろ』

と云つた。

重田眼科
眼科專門
眼鏡檢定
平驛前
重田醫院

宴會、御婚禮、仕出し
割烹　尼子亭
……お湯の設備あり……公園內　電話二三〇番
女中さん至急入用

平市南町
大和田醫院
電話一七〇

與ダイペンヤ付
ウエル萬年筆
二、〇〇以上
商工省主催『代用品工業振興展覧會』出品中千點中萬年筆としてはウエルたゞ一點嚴重なる鑑査に合格したる新興國策製品
代理店　魁文堂　電話三一三

廣告

他店で御氣に召さぬ時に是非一度
——常磐線東京仙台間であらゆるクリーニング店設備の揃つてゐる……
純ドライクリーニング
西洋洗濯
田町　白榮舍ランドリー
正直なる仕事と優秀なる技術を望まるゝ方は
設備平市第一の
白榮舍ランドリー

移轉廣告
紺屋町ヨリ左記ニ移轉シマシタ
何卒倍舊ノ引立ヲ願ヒマス
平市二町目警察署通り（平館角）
味ノ素ニ優ルコーミ
味ノ素代用品興味
平特約店　大畑食品店

簡易金融
小口も歡迎いたします
茨城相互株式會社平出張所（金融業）
假事務所　平市才槌小路二四
線川喜三郎

吸入用酸素　純度99%
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　體温器　寒暖計
秤ノ取締[illegible]
關內藥局
電話四〇番

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　性病科　皮膚科　專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸科醫院
（平市南町電一〇七番）